# **タイトル中央揃えフォントサイズ14ポイント**

# **―サブタイトルがある場合，改行して中央揃え―**

# XXX（名字 名前は採択後に記入）

# XXX（所属機関名は採択後に記入）

**Title in English: Capitalize All Words Except for Articles, Conjunctions, and Prepositions Fewer Than Four Letters**

XXX (SURNAME, Nameは採択後に記入)

*XXX (Name of Affiliation in Englishは採択後に記入）*

**Abstract**

Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English. Japanese articles should have an abstract up to 150 words in English.

***Keywords:*** keyword 1, keyword 2, keyword 3, keyword 4, keyword 5 (3つ以上5つまで)

# **1. はじめに**

このテンプレートは外国語教育メディア学会（LET）関西支部研究集録に投稿する論文に使用する。投稿論文は論文，研究ノートの別にかかわらず，和文の場合にはこのテンプレートに従い執筆する。最初のページのヘッダーで，論文か研究ノートのどちらかを消去して，明確にしておく。著者が複数いる場合は，1人目の後，1行スペースを空けて氏名と所属を入力する。本文で使用する言語に関わらず，150語以内の英文の要約を付けるものとする。要約のあとは1行空けて，Keywords（Keywordsは斜字体になっているが，個々のキーワードは斜字体にしない）を3つ以上（5つ以内），執筆言語で記入する（英語でキーワードを書いても構わない）。

# **1.1 タイトルの書き方**

日本語タイトルでは，サブタイトルの前後をダッシュ「―」で挟む。英語タイトルでは，冠詞および3文字以下の接続詞・前置詞以外は，すべての語の語頭を大文字とする。サブタイトルはコロンで区切る。

# **1.2 所属の書き方（採択が決定した場合）**

掲載が決定した場合の所属は必ずLETに届け出ているものを記載すること（現職教員で大学院生の場合にも同じ）。届け出ている所属以外の所属を論文中に書く場合は，学会ホームページ上で新しい所属に変更した上で行う。所属の併記はしないこと。非常勤の場合でも（非）などとは記載しないこと。大学院生の場合「○○大学大学院生」，また，英語では，Graduate Student, \*\* Universityなどとし，修士課程と博士課程の区別はしない。

# **1.3 書式注意点**

# 本文の太字，余白，文字フォント，セクション番号の打ち方，インデントなど，すべての設定をこのテンプレートに従い変更しないこと。特に，別ファイルで用意した原稿を貼付ける場合には，形式が変更されないように注意する。

# 使用する書体は，原則として和文の場合「明朝体」，英文の場合「Times (New Roman)」とする。文字の大きさは和文の場合10.5ポイント，英文の場合12ポイントとし，1ページの行数を35行とする。和文の場合は1行40字とする。原稿は参考文献を含めて25枚以内とする。

# 日本語の句読点は，「，」と「。」にする。英数字には半角を使用し，全角は原則として使用しない。ページ番号は入れても構わないが，最終的に採択された場合には消したものの提出を求める。提出時に形式が守られていない場合には，提出を受け付けない場合や，編集委員会にて書き直しを求める場合もある。また，査読にて掲載可能となった場合でも，書式不備がある場合には，編集委員長の判断で掲載を見送ることがある。

# **1.4 セクション番号の付け方**

一番大きなレベルの見出しのあとにはピリオドを入れる（例：1. はじめに）。次のレベル以下の見出しのあとにはピリオドは入れない（例：1.3 セクション番号の付け方）。レベルは原則として3つまでとする（例：1.3.1）。それぞれの数字のあとには半角2文字分（全角1文字分）のスペースを入れる。レベルの太字の有無，フォントサイズなどは，このテンプレートに従うこと。次の見出しを作る場合は，1行スペースを空ける。図や表がセクションの最後に入った場合は，2行スペースを空ける。

# **2. その他のガイドライン**

# **2.1 引用方法**

本文中での引用方法は最新のAPAに基づく。和文の場合は前後の括弧を全角（）で記載する。英文の場合はすべて半角括弧 () となる。これは和文中引用の一例（Cohen, 1988; 磯田, 2004, p. 48; 山本, 2002, p. 143）。括弧内はアルファベット順で記載する。著者が2名以上の場合は，永田・吉田（1997）というように，間を中黒・で区切る。著者が3名以上の場合は，原則，初回から，第1著者名他（年号）とする。

# **2.2 表**

# 表は本文中に入れ，通し番号をつける。表Xで1行取り，次の行に表のタイトルを記述する。表中の文字や数字は小さすぎると，見にくくなってしまうため注意する。表の後に次のセクションが続く場合は，2行スペースを入れる。

表1

テストと検定の結果

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| テスト | グループAa | グループBa | グループCa | *F* | *p* |
| リスニング | 59.13 (9.76) | 57.21 (7.61) | 53.77 (7.46) | 4.39 | .02 |
| スピーキング | 64.33 (14.54) | 57.17 (13.61) | 53.61 (19.81) | 4.53 | .01 |

*Note*. a*n* = 40; Mean (*SD*)

# **2.3 図**

# 図は本文中に入れ，通し番号をつける。図の番号とタイトルは，表と同じく図の上に付し，左寄せにして配置する。図や写真は原則として白黒表示されるため，色をつけないようにする。グラフの中の背景も色をつけない。また，軸についている数字や文字も見やすい大きさにそろえておく。図の前後は1行あける。図の後に次のセクションが続く場合は，2行スペースを入れる。

# なお，図表を他の文献資料から転載する場合，転載許可の要不要を確認すること。転載許可が必要な場合は，投稿までに，著者の責任において，許可を得ておくこと。

図1

シミュレーションの結果

Macintosh HD:Users:mizumot:Desktop:図1.pdf

**2.4 用語上の注意**

**2.4.1 倫理的配慮**

被験者（subjects）などの語は，一部の場合を除いて，参加者（participants）という用語を用いるほうが望ましい。そのほかの倫理的配慮については，APA最新版を参照のこと。

**2.4.2 匿名性の確保**

投稿時には著者が特定できるような書き方をしないように注意を払う。例えば，自分がこれまでに行った研究を引用する場合は，著者（2010）のように本文中には記載し，参考文献でもAuthor (20XX)のように論文が特定できないように記載する。論文が採択された場合は，すべての情報を正しく記載して，最終原稿を提出する。

**謝辞**

謝辞がある場合は，本文の直後に記載する。個人を特定できるような謝辞は投稿時には入れない。もし，入れる場合は次のように個人が特定できないように配慮する。本研究の実施にあたっては，XX大学のXX先生のご指導をいただいた。末筆であるが御礼を申し上げたい。

**注**

1. 注は脚注ではなく，本文と参考文献の間にまとめて記載する。

2. 本文中では「これは注釈の例1」というように右肩上付で注番号をつけておく。

**参考文献**

Author. (2019). 論文名は記載しない。

著者1・著者2 (2022). 論文名は記載しない。

Bardovi-Harlig, K., Mossman, S., & Su, Y. (2017). The effect of corpus-based instruction on pragmatic routines. *Language Learning & Technology, 21*(3), 76–103. https://www.lltjournal.org/item/10125-44622/

DOIのついてないオンラインジャーナルの場合はURLを記載する。

Breiman, L. (2001). Random forests: An introduction. *Machine Learning, 45*(1), 5–32. https://doi.org/10.1023/A:1010933404324

巻はイタリック，号はカッコ内。書名・論文名の大文字は冒頭のみ。雑誌名は単語ごとに語頭を大文字にする。DOIや（DOIがない場合は）URLを必ず入れること。

Campbell, D. T., & Kenny, D. A. (1999). *A primer on regression artifacts*. Guilford Press.

著者が複数の場合に，＆の前にカンマを忘れない。書名は冒頭とコロンの後のみ大文字とし，斜字体で記載する。出版社の地名は必要なし。

Cohen, J. (1988). *Statistical power analysis for the behavioral sciences* (2nd ed.). Lawrence Erlbaum. 版は括弧にいれる。

Gilbert, D. G., McClernon, J. F., Rabinovich, N. E., Sugai, C., Plath, L. C., Asgaard, G., Zuo, Y., Huggenvik, J., & Botros, N. (2004). Effects of quitting smoking on EEG activation and attention last for more than 31 days and are more severe with stress, dependence, DRD2 A1 allele, and depressive traits. *Nicotine and Tobacco Research, 6*, 249–267. https://doi.org/10.1080/14622200410001676305

著者が20名までは全員記載する。20名以上では，最初の19名＋… ＋最後の1人の形で記載する。

Haybron, D. M. (2008). Philosophy and the science of subjective well-being. In M. Eid & R. J. Larsen (Eds.), *The science of subjective well-being* (pp. 17–43). Guilford Press.

筆者名は「姓＋名イニシャル」だが，編著者名は「名イニシャル＋姓」の順序になる。編者が複数名の時には，(Eds.)とする。編者が2名の時は，&の前にカンマをつけない。書名の後は，半角スペースを挟んで，ページ数を入れてからピリオドをつける。

In’nami, Y., & Koizumi, R. (2009). A meta-analysis of test format effects on reading and listening test performance: Focus on multiple-choice and open-ended formats. *Language Testing, 26*, 219–244. https://doi.org/10.1177/0265532208101006

石川慎一郎 (2013)．「ICNALEを用いた中間言語対照分析研究入門：日本人学習者の『特徴語』を再考する」『英語教育』(大修館書店), *61*(13), 64–66.

定期刊行物は誌名だけで特定できない場合，（　）で刊行所（学会・大学・出版社）を併記する。『＊＊大学紀要』や『＊＊学会論集』などの場合は不要。論文名は「　」，書籍・雑誌は『　』。年号のあとのピリオドは全角，「　」の中でもう1回「　」を入れる時は『　』になる。

磯田貴道 (2008).『授業への反応を通して捉える英語学習者の動機づけ』溪水社

前田啓朗 (2008).「WBTを援用した授業で成功した学習者・成功しなかった学習者」*Annual Review of English Language Education in Japan, 19*, 253–262. https://doi.org/10.20581/arele.19.0\_253

靜哲人・竹内理・吉澤清美 (2002).『外国語教育リサーチとテスティングの基礎概念』関西大学出版部

複数の著者の記載はナカグロ（・）を使用する。21名以上の場合，最初の20名を記載し，その後は「他」とする。姓名の間にスペースを入れない。

* 参考文献は本文で引用したもののみを英文・和文ともにアルファベット順で掲載する。
* 自分の研究を引用する場合は，匿名性を確保するために，日本語の論文は，著者 (2010). のように参考文献の最後に，英語の論文は，Author. (2019). のように参考文献の最初にまとめて書く（投稿時のみ）。
* 和文の参考文献では，括弧は半角を用いる。ジャーナルや本の記載は上記を参照のこと。
* 日本語文献の出版社地名は不要。
* ジャーナルのページ数引用はハイフン（-）ではなく，en dashダッシュ（–）を使う。